View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE

教育保育インターンシップ2の現状と課題:小学校の場合

著者名(日)	柳本哲 田上由雄
雑誌名	研究紀要
巻	10
ページ	1-12
発行年	2009-03-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1084/00000277/

関西国際大学研究紀要
第10号,2009年,　1〜11

教育保育インターンシップⅡの現状と課題
―小学校の場合―

The present condition and the issues
of Education Childcare Internship Ⅱ
-In elementary school-

柳　本　　哲*　　田　上　由　雄*
Akira Yanagimoto　　Yoshio Tagami

抄　録

本研究では，教員や保育士を目指す学生の実践的能力を磨くための新設科目「教育保育インターンシップⅡ」において，小学校での実施状況と，その中で得られた課題や問題点等について述べる。限られた時間枠ではあるが，学生の満足度は高く，多くの能力を獲得していることが分かった。

Abstract

This paper discusses the newly established course “Education Childcare InternshipⅡ”, which is aimed to improve the practical ability of students who aspire to become a teacher or a child-care worker. The internship conducted in elementary schools and its issues and challenges will be addressed. Though it was conducted within a limited timeframe, it was found that the students were highly satisfied and were able to acquire considerable skills.

1．はじめに

現在進行している教育改革では，21 世紀教育新生プラン〜レインボープラン〜〈7 つの重点戦略〉の中に,「教えるプロとしての教師を育成します」という戦略が立てられている。教育改革で最重要課題となる教育基本法が 2006 年 12 月に改定された。そして，新教育基本法第 17 条第 1 項の規定のもとに教育振興基本計画が 2008 年 7 月に閣議決定されている。そして，今後 5 年間に取り組むべき施策 77 項目の中の 1 つに,「教員養成・研修等の推進」が挙げられ,「実践的能力を備えた質の高い教員を養成するため，教職実践演習 (仮称) を必修化するとともに，その能力の向上を図るため，教員養成に係るカリキュラムや，教職課程に係る事後評価，認定審査の在り方などを見直し，逐次実施する。その状況も踏まえつつ,教員養成の在り方の抜本的な改革について検討する。…」と述べられている。このように,

* 関西国際大学教育学部

実践的能力を備えた教員の養成が大学の課題となっている。

弘前大学教育学部では，2005年度から新科目「教員養成総合実践演習」プログラムが試行実施されている。このプログラムは「総合実践演習」（通年）「学校サポーター活動」（5月～2月，週1回）「研究教育実習」（2週）という構成で，選択ではあるが4年生を対象に実践的能力の育成が図られている。2006年度には「学校サポーター実習」（前後期各2単位）として，公立のサポート校へ週1回行っている。この他に3年生で水曜日の午後に附属学校園に行くTuesday実習という必修科目も行われている[1)]。

信州大学教育学部では，2005年度教員養成GPの取り組みの中で，2年生を対象に臨床経験科目である「教育臨床演習」を行っている。この科目は，8～9月に協力校において1週間の臨床実習を経験するものである。1人1学級に配属となり，学級担任等の指示に従って学校生活を体験するもので，授業を中心となって担当することはないが，かなり教育実習に近い活動となっている。授業に必要な教材や資料の作成・補助的業務に携わったり，学校行事等の準備や活動への参加・協力や，学級通信等の作成，ＴＴでの学習指導，授業記録等をつけたりする内容となっている[2)]。

立命館大学では，2003年度より学校インターンシップ・プログラムが実施されている。4月から2月の期間に，週1回以上の分散型または5日以上連続の集中型で行われるもので，40時間以上の実務研修をして2単位認定となる。対象学生は2～4年生である。2005年度に小学校へ行った学生は15名で，内10名は集中型で10月の自然教室補助に行っている[3)]。

これらの事例のように，多くの大学で実践的能力を備えた教員の養成が試みられている。本学は小学校教員養成課程を2006年度から立ち上げ，2007年度からは教育学部に改組されたが，教育福祉学科こども学専攻では，実践力のある教員の育成を1つの柱にカリキュラムの検討を行ってきた。その結果，2008年度から「教育保育インターンシップⅠ，Ⅱ，Ⅲ」という科目を1年から3年にそれぞれ開講することとなった。

本稿では，今年度初めて実施した本学2年生の現場体験科目「教育保育インターンシップⅡ」の実施状況をもとに，小学校の場合の具体的活動内容について報告するとともに，その問題点や課題について考察する。

２．教育保育インターンシップⅡの実際

２－１　「教育保育インターンシップⅡ」の概要

① 開講学期：2008年度 春学期は月曜日1，2限（午前）　秋学期は月曜日3，4限（午後）

② 単位数：通年2単位

③ 対象：本学教育学部2年生

④ 講義概要：

初等教育教員や保育士をめざす学生が，学内での科目と関連させて，幼稚園や小学校，保育所，特別支援学校などで職場体験を行うことにより，教員や保育士に必要な実践的能力を高めるとともに，自らの社会性や人間性を培うことを目的とする。

大学の講義で，インターンシップについての基本的事項を学び，各自課題意識をしっかりもって職場に行くことができるようにする。各職場では，受け入れ機関の長の指示の下に，通常業務を体験する。

業務活動については毎回活動記録をつけ，担当教員の指導をうけて，課題を明確にし，次の活動に生かせるようにする。

各職場での業務活動について，小課題を設け，受講生同士の討議で問題解決力や判断力を鍛え，初等教育教員や保育士としての実践的能力の向上をめざす。

⑤ 学習目標：

・自らの責任や必要感を感じることをやり遂げることができる。（社会的行動力）

・集団や社会の一員として，ルールやマナーをわきまえながら行動することができる。（順法性）

・問題に直面したときに，周りの人々の意見をよく聞いて，よりよい解決を考えようとすることができる。（判断力）

・将来の進路について考えることができる。（自律性）

⑥ アサインメント（宿題）及びレポート課題：

・受け入れ機関との打ち合わせ　・活動記録

・小課題　課題は各自の職場体験の内容をふまえながら講義において提示

・レポート　テーマは各自が業務活動の中から関心をもった分野を見出し，設定する。

⑦ 成績評価の方法：

・出席および職場での取り組みの様子（巡回指導，受け入れ機関での聞き取り）40%

・小課題（春学期2回，秋学期2回）20%　・活動記録　20%

・レポート(春学期1回，秋学期1回)　20%

⑧ 授業展開及び授業内容：

第1回(4/7)　イントロダクション　受け入れ機関の確認

第2回(4/14)　インターンシップとは

第3回(4/21)　学習計画（この週までに各自受け入れ機関との打ち合わせをすませること）
次週からの4回の業務体験についての小課題提示

第4回－第7回(4/28, 5/12, 5/19, 5/26) 各職場で業務活動，活動記録は翌日までに提出

第8回(6/2)　大学で講義　小課題の提出　受け入れ先の種別に集まり討論
次週からの5回の業務体験に向けたテーマの設定

第9回－第13回(6/9, 6/16, 6/23, 6/30, 7/7) 各職場で業務活動，各自のテーマに沿った振り返り

第14回(7/14)　大学で活動発表会（グループ別）

第15回(7/28)　大学で活動発表会（全体），レポート提出

第16回(9/29)　学習計画，次週からの5回の業務体験についての小課題提示

第17回－第22回(10/6, 10/20, 10/27, 11/10, 11/17)　各職場で業務活動
(10/13は，大学での個別相談日)

第23回(12/1)　大学で講義　小課題提出　受け入れ先の種別に集まり討論（グループ別）
次週からの4回の業務体験についての小課題提示

第24回－第28回(12/8, 12/15, 12/22, 1/19) 各職場で業務活動，各自のテーマに沿った振り返り

(1/5 は，大学でテーマ別討論会)

第 29 回 (1/26)　大学で講義　小課題提出　受け入れ先の種別に集まり討論（グループ別）

第 30 回 (2/2)　大学で活動発表会（全体），レポート提出

2－2　三木市の場合

(1) 三木市教育委員会との協定

三木市と関西国際大学との間には，2005 年 11 月に連携協力に関する協定書が交わされている。両者による包括的な連携のもとで，まちづくりの各分野において協力し，地域の発展と人材の育成に寄与することが目的とされており，具体的な連携協力事項としては，①人的•知的資源の交流及び情報の交換，②協働による調査研究及び事業の実施，③各々が主催する事業に対する相互の協力・支援，④その他必要と認める事項，となっている。

本学に教育福祉学科が 2006 年 4 月に新設され，サービスラーニング室を中心に三木市教育委員会との協議が進み，2007 年 6 月に第 1 回「教育ボランティア地域連絡会」がスタートし，大学と教育委員会からそれぞれ 10 名程度の代表者が集まり年 2 回の連絡会を持つこととなった。この連絡会は，2008 年度より「サービスラーニング地域連絡会」と改名し，運営されている。

2008 年 4 月には，三木市教育委員会と関西国際大学との連携協力に関する協定書が，教育長と学長との間で取り交わされることとなった。この中で述べられている連携協力事項は，①大学が実施するサービスラーニング，インターンシップ，ボランティア活動等の学外教育活動の実施と推進への協力，②教育実習を円滑に実施することへの協力，③教委が実施する教員研修への協力，④教委の実践的な教育研究活動への協力，④その他必要と認める事項，となっている。

この間に前後して，2007 年 10 月には，三木市内にある 16 カ所の小学校，市立特別支援学校，県立のじぎく特別支援学校を，学科教員が分担して訪問し，インターンシップ及び教育実習についての趣旨説明と協力依頼を行った。

その結果，インターンシップの受け入れについて，市内のかなりの小学校において可能な範囲での協力が得られる体制をつくることができた。三木市教育委員会としては，校園長会でのアピールや各校園への訪問についての後押しはするものの，教委から押しつけるのではなく，各校園の実態に即した自主的な判断により可能な所から受け入れていくという方針であった。

(2) 三木市の小学校の現状

三木市の小学校は 16 校あり， 3 月末現在見込みで 2008 年度の学級数は 199 学級，全児童数は 4566 人となっている。この中で 6 校は 10 学級未満の小規模校となっており，その多くは 2005 年の市町村合併により三木市に統合された旧吉川町内の山村地域に所在している。また，18 学級以上の小学校は 2 校のみである。

三木市の学校教育においては，22 の取組を定めて熱心な教育改善がなされている。学校安全指導員の配置，ＯＪＴ（On the Job Training, 職業能力開発），不登校総合対策推進事業，食育，キャリア教育，環境体験事業，“５Ｒ”（循環型社会実現）の実践，情報モラル教育，ユニバーサル社会，特別支援

教育などが，その取組み事例で，市をあげて熱心に地域教育環境の整備に取り組んでいることが窺える。いくつかの小学校を訪問見学する機会があったが，どの小学校も全体的に落ち着いた学習環境が保たれ，マナーの良い元気な子どもたちが育っているように思われる。

小学校への大学生の出入りとしては，出身校教育実習，自然体験学校補助の学生ボランティア，兵庫教育大学との提携で年4校ほどに配置されている教育実習などがある。兵庫教育大学の実習科目は,「実地研究Ⅰ，Ⅱ」(2年),「インターンシップ」(3年）となっている。2007年度の場合，実習受け入れ大学は30大学を超え，幼小中で60数名の教育実習生を受け入れている。

(3) インターンシップの活動内容

① 履修学生：関西国際大学2年生　男子7人，女子5人，計12人

② インターンシップ先の小学校

三木小学校　2人　　緑が丘小学校　2人　　緑が丘東小学校　2人

広野小学校　3人　　自由が丘小学校　1人　　みなぎ台小学校　2人　　計12人

③ 現場体験活動の具体的事例

現場における業務体験の具体的内容を，3つの小学校を事例にして，第1次(4/28, 5/12, 5/19, 5/26)，第2次(6/9, 6/16, 6/23, 6/30, 7/7)，第3次(10/6, 10/20, 10/27, 11/10, 11/17)，第4次(12/8, 12/15, 12/22, 1/19)にわけて紹介する。ただし，第4次については現在進行中で未確定なので，ここでは省略する。

A小学校の場合

第1次…登校指導，教室掲示板づくり，清掃指導，遊び，給食指導，算数や体育の授業補助ドリルの添削

第2次…登校指導，掲示板づくり，プール指導補助，ドリル添削，プリント印刷，個別学習の補助，国語の授業参加，集会の整列指導，清掃指導

第3次…運動会準備と練習補助，給食配膳指導，算数補習での指導補助，外国語活動の指導補助，本の読み聞かせ，体育の授業補助，調べ学習の指導補助，計算ドリル添削，日記指導補助，式典準備清掃

B小学校の場合

第1次…掲示板づくり，教材印刷，教材作り(算数の立方体)，自然学校の栞作り，漢字ドリルの添削，机椅子の調節，校内美化(児童と溝清掃)，畑の草取り

第2次…プリント印刷，掲示板の張り替え，宿題の添削，漢字テスト作り，畑仕事，倉庫の片付け，七夕の笹作り

第3次…図工室での虫かご教材づくり，掲示物の貼り替え，

C小学校の場合

第1次…ベランダ掃除，溝フタ磨き，給食の配膳，隣の幼稚園の草刈り，園外での保育補助，溝掃除，体育館の鉄格子ネジ締め

第 2 次…草刈り，植木の剪定，体育館の破損場所の修理，換気扇の掃除，荷物の搬送，特別支援学級児童の送迎

第 3 次…スクールサポーターとして児童への挨拶，算数テスト見学，図工や算数や国語の授業補助，カタカナ練習帳の添削，書写と体育の授業補助，給食指導，清掃指導

以上のように 3 つの小学校での具体的活動事例を列記したが，受け入れ小学校によって，かなり内容や順番において体験活動に違いがあることがわかる。最初から授業補助等に入り，子どもへの教育活場面を直接体験している学生と，はじめは教育環境整備や教材準備等の子どもとは直接接触しない背後の教育活動を中心に体験している学生には，かなりの相違が見られる。子どものドリルを添削すること 1 つをとっても，インターンシップ学生が行うことについて，賛否両論の意見があると推察される。

春学期末の小課題や期末レポートのテーマには，「給食などの食育について」「学級崩壊」「児童と先生の関わり」「教育現場における環境整備の大切さ」「教師の仕事とは」「よい教師とは〜叱る〜」「小学生への接し方」「教師と児童の関係性」「授業の展開」「小学校の算数の教え方」「子どもの問題と大人の問題」「甘えすぎる子どもへの対応」「個に合った指導」「人を傷つける言葉」「性教育について」「子どもの問題への対応策」などが見られ，様々な視点に学生の関心が向いていることが窺える。教員の人間性や子どもとの関係づくりに多くの学生の関心が注がれていることは，インターンシップという学外現場体験，大学内での学習にはない活動というこの科目の特殊性を反映しているものと考えられる。

(4) インターンシップの成果と課題

まず，受け入れ側の小学校の状況について述べる。このインターンシップについては，具体的活動内容についての規制が少なく，自由度が大きいものであったことから，各小学校においては，戸惑いの中でスタートしたのではないかと考えられる。学校長を中心に受け入れ体制をとり，無理のない範囲でどのような活動が可能なのか，ある意味では実験的に試行実施されてきたというのが現状ではないだろうか。学年に配置された場合，その担当教員の力量と裁量に基づいて実施された部分も多いであろう。

約 8 ヶ月経過した現時点での現場教員の受け止めは，大学生が小学校に毎週来ていることに違和感を持たなくなった，大学生の人柄にもよると思われるが，多くの場合に彼らを好意的に見ているという状況にあるようである。さらには，よく気がつき動く学生の所では，大変感謝されていたり，戦力に見てもらっていたりもしている。

また，新任教員のクラスの補助に入っている場合などでは，その教員にとってはかなりの刺激となるようで，年齢が近いということでの親近感や立場の違いという作用もあり，このインターンシップが大学生ばかりでなく，現場教員の指導力向上に寄与する効果が見られるようである。一般的に，若い教員の卵が学校現場にいることは，現場教員集団を活性化させる 1 つの要因となることが窺える。

問題点としては，月曜日は休みが多い，午後は低学年が帰ってしまう，昔と違って小学校内に教員以外のいろんな人 (安全指導員，補助員，看護師，栄養士，カウンセラー，等々) が出入りするようになった，運動会等の行事の関わりで 9 月に来てほしい，遠足等の学外行事への参加，特別支援学級でのサポートが欲しいがプライバシー保護との絡みもある，等のことが挙げられる。

次に，参加学生側の状況について述べる。アンケート調査結果では，約 6 割の学生がこのインターンシップⅡの履修に満足している状況である。その理由は，現場で学べる良い機会であること，子どもと関われること，行事に参加できること，自分の力が分かり改善できること，学校になじめていること，楽しく力になっていること，授業について学べること等である。マイナス面は，内容が確実に決まっておりず，小学校によって異なること等が挙げられている。

2－3　神戸市の場合

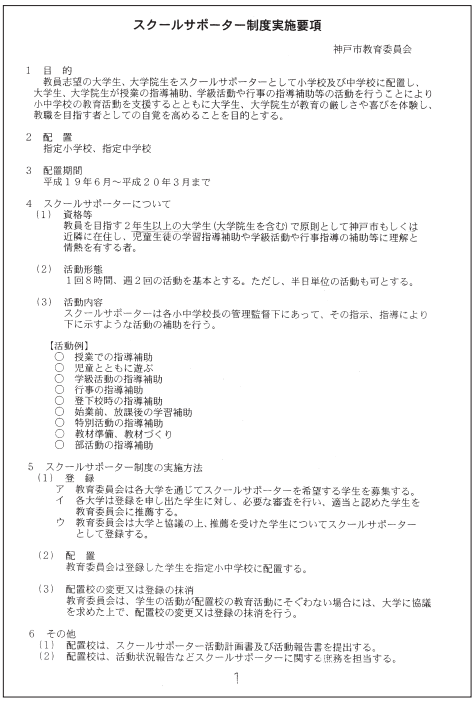
(1) 神戸市教育委員会との協定

神戸市では，関西国際大学が教育保育インターンシップを実施する以前から，教員志望の大学生，大学院生をスクールサポーターとして 教師の授業補助や業務補助の活動にあたらせており，現在，阪神間の 27 大学がこの制度を利用し，参加している (図 1)。

関西国際大学では，インターンシップのねらいから，神戸市のスクールサポーター制度を検討した結果，神戸市の目的と概ね一致し，学生の資質向上にも役立つことから，神戸市と協定を結び，実施することとなった。

神戸市のスクールサポーター制度と本学のインターンシップとのくい違いから生じる混乱やトラブルを避けるため，実施 1 年前から神戸市教育委員会との話し合いを重ね，摺り合わせを行った。神戸市のスクールサポーター制度では，神戸市各小学校の配置希望調査が 5 月である。各小学校からの配置希望を受け配置調整を終え決定されるまで約 1 ヶ月，実質，学生が活動する時期は 6 月に入ってからである。本学は，スクールサポーターに参加する 27 大学のうち，これを単位として認めている数少ない大学であり， 4 月に開講し，オリエンテーションや事前指導を含めても 5 月上旬には配置校に受け入れてもらう必要がある。そのため，神戸市が校長会に行っているスクールサポーター実施説明会を 4 月上旬に，配置を 5 月にしてもらえるよう交渉したが，本学の都合だけで時期を早めるのは不可能であり，当然無理な相談であった。そこで，説明会等，制度実施の流れについてはそのまま予定通りに開催し事務手続きを進めるが，学生の配置については本学から直接校長先生にお願いし 5 月には受け入れてもらうことを承知してもらったのは大変ありがたいことであった。

学生の希望を 2 月に取り， 3 月には学生の居住区に近い小学校や神戸市出身者には母校に電話を入れ，スムーズに 12 名の配置校を決定した。また，インターンシップ受講生ではないが，編入生や教育ボランティアを希望する学生 15 名についても順次配置をしていった。明石や，淡路から通学する学生には，午後の授業に間に合うように



スクールサポーター制度実施要項

神戸市教育委員会

1　目　的
教員志望の大学生、大学院生をスクールサポーターとして小学校及び中学校に配置し、大学生、大学院生が授業の指導補助、学級活動や行事の指導補助等の活動を行うことにより小中学校の教育活動を支援するとともに大学生、大学院生が教育の厳しさや喜びを体験し、教職を目指す者としての自覚を高めることを目的とする。

2　配　置
指定小学校、指定中学校

3　配置期間
平成１９年６月～平成２０年３月まで

4　スクールサポーターについて
（1）資格等
教員を目指す２年生以上の大学生（大学院生を含む）で原則として神戸市もしくは近隣に在住し、児童生徒の学習指導補助や学級活動や行事指導の補助等に理解と情熱を有する者。

（2）活動形態
１回８時間、週２回の活動を基本とする。ただし、半日単位の活動も可とする。

（3）活動内容
スクールサポーターは各小中学校長の管理監督下にあって、その指示、指導により下に示すような活動の補助を行う。

【活動例】
○　授業での指導補助
○　児童とともに遊ぶ
○　学級活動の指導補助
○　行事の指導補助
○　登下校時の指導補助
○　始業前、放課後の学習補助
○　特別活動の指導補助
○　教材準備、教材づくり
○　部活動の指導補助

5　スクールサポーター制度の実施方法
（1）登　録
ア　教育委員会は各大学を通じてスクールサポーターを希望する学生を募集する。
イ　各大学は登録を申し出た学生に対し、必要な審査を行い、適当と認めた学生を教育委員会に推薦する。
ウ　教育委員会は大学と協議の上、推薦を受けた学生についてスクールサポーターとして登録する。

（2）配　置
教育委員会は登録した学生を指定小中学校に配置する。

（3）配置校の変更又は登録の抹消
教育委員会は、学生の活動が配置校の教育活動にそぐわない場合には、大学に協議を求めた上で、配置校の変更又は登録の抹消を行う。

6　その他
（1）配置校は、スクールサポーター活動計画書及び活動報告書を提出する。
（2）配置校は、活動状況報告などスクールサポーターに関する事務を担当する。

1

図1　スクールサポーター制度実施要項

と，JR 垂水駅前の垂水小学校に 4 名を受け入れてもらい，大阪から通学する学生には JR 神戸駅南の湊小学校に 3 名，北区の鈴蘭台小学校にも 3 名と少し歪な配置になったのは仕方のないことであった（表 1）。

もう 1 点問題となったのは，交通費の問題である。神戸市のスクールサポーター制度では交通費が支給されている。三木市の場合，予算化されておらず，三木市の小学校に配置された学生には交通費が支給されないため，神戸市に対し，交通費を辞退することとなった。大阪方面や淡路，明石からスクールサポーターに参加する学生は，長期的に見れば負担も大きく，気の毒な一面もあった。次年度は，交通費については受け取ってもいいのではないかと考える。

神戸市教育委員会や神戸市校長会には，学生を受け入れ，教師として育てようという思いがあり，どの学校も快く学生を受け入れてもらったこと，また本学のインターンシップについて理解し学生を育ててくれていることに今更ながら感謝の気持ちでいっぱいである。

学生の配置を終え，活動を開始した後にも，直接私に電話が入り，スクールサポーターの配置のお願いをされたが，学生はすでに出払っており，うれしい悲鳴をあげているのが現状である。

表 1　神戸市スクールサポーター配置校

魚崎小学校　1 名	宮本小学校　2 名	桂木小学校　1 名	垂水小学校　4 名
住吉小学校　1 名	春日野小学校　1 名	山の手小学校　1 名	乙木小学校　1 名
高羽小学校　1 名	湊小学校　3 名	板宿小学校　1 名	押部谷小学校　2 名
成徳小学校　1 名	鈴蘭台小学校　3 名	淡河小学校　1 名	東町 小学校　1 名

（平成 20 年 6 月現在　教育保育インターンシップ及び教育ボランティア）

(2) 神戸市小学校の現状とスクールサポーターのニーズ

小学校教師の仕事は本当に煩雑である。小学校低学年では全ての教科を教えている。高学年は，若干の教科については専科制をとっているが，全体の授業時数が多い。放課後には各教科で教えたワークシートや，ノート類の添削，学級通信作り，校務分掌事務等，その日のうちには処理できないほどの仕事の量である。

また，阪神淡路大震災以降，震災で傷ついた児童の心のケアーを含め，特別な配慮を要する児童への個別指導，家庭訪問に追われているが，教員の配置増はなかなか認められないのが神戸市の現状である。それに加え，学力低下・体力低下の批判への対応として取り組まれている「分かる授業」「基礎体力づくり」の新規事業など現場の抱える様々な課題も多い。

このような中，学習や行事の指導補助，教材準備や教材づくり，児童の遊び補助等に学生が教育現場に入り教師を助けることについては学校側のニーズは非常に高いのである。神戸市教育委員会は，このような教育現場の状況を踏まえ，スクールサポーター制度をいち早く立ち上げ，拡大していったことは頷けるところである。

大学側としては，学生に教師としての知識を教えるだけでなく。現場感覚を持った，現場に強い教師を育てなければならない。昨今，大学を卒業し，現場に立った教師に実力が備わっていなく，大学で何を勉強していたのかという批判に晒されることも多い。それは，現場を十分知らずに卒業し，知識はあっても児童の前では通用しないことから起きている問題である。本学では，知識と現場体験の融合を目指

しており，児童の前で生きて働く力を学生に備える必要を強く感じている。現場でしか学べない児童との交流や教師の働く姿を直接感じ取れる教育保育インターンシップや教育ボランティアは，本学の重要な学習であり，柱の一つでもある。

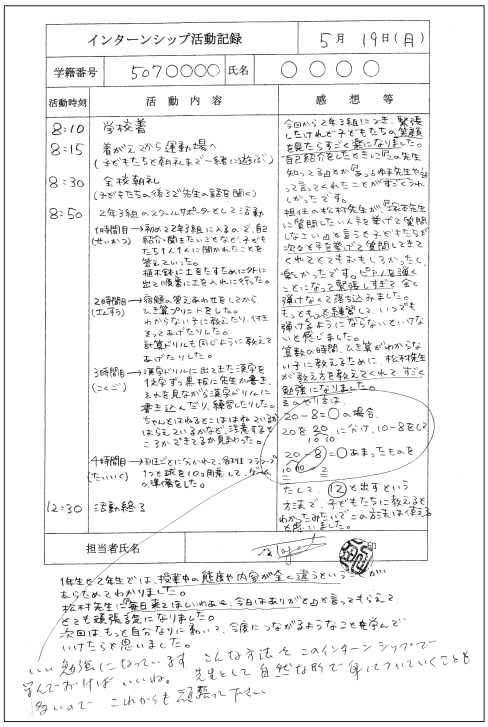
このような大学側の方針と神戸市教育委員会の方針が一致することによって，双方に利益をもたらしていく連携の方法をこれからも強く推進していく必要があると考える。

(3) インターンシップの活動内容

5月より神戸市立の各小学校へ配置された学生は，当初，児童への接し方が分からず，途惑いもかなりあったようである。事前指導で，服務や態度，特別支援，生徒指導等，教育実習なみの学習をしたが，やはり現場での経験不足からくる困惑はかなり重圧となった学生もいる。しかし，回数を重ねるうちに小学校のことが少しずつ理解でき，児童との交流の楽しさも覚えていくなかで教師になる夢を確かなものにした学生も多い。

学生の活動の内容は各小学校に任されており，主な内容として調査した結果によると，

①授業での指導補助
②学級活動の指導補助
③特別支援児童補助
④児童と共に遊ぶ
⑤登校指導・下校指導



インターンシップ活動記録　5月 19日(月)

学籍番号 5070000　氏名 ○○○○

活動時刻	活動内容	感想等
8:10	学校着	今日から2年3組につき、緊張してすぐ子どもたちの笑顔を見たらすごく楽になりました。自己紹介をしたときに昭の先生知っとる由さが…ある先生やねって言ってくれたことがすごくうれしかったです。
8:15	着がえてから運動場へ（子どもたちと朝あそび～一緒に遊ぶ）	
8:30	全校朝礼（子どもたちの様子や先生の話を聞く）	
8:50	2年3組のスクールサポーターとして活動	担任の松村先生が、宿題先生に質問しいく手を挙げて質問しなさい由を言うとすぐ子どもが沢山手を挙げて質問してきてびっくりおもしろかったし、楽かったです。だれ人も強くなることになって緊張しませて全く強けなくて落ち込みました。もっともっと練習して、いつでも強けるようにならないといけないと感じました。
1時間目（せいかつ）	朝から2年3組に入る。まず自己紹介。聞きたいことなど子どもたちと1人1人に聞かれたことを答えていた。 緊張を解く工夫をするために外に出て運動場に出を入れに行った。	
2時間目（けんこう）	宿題の答え合わせをしてから、計算プリントをした。 わからないときに教えたり、やさしまってあげたりした。 教室がいっぱい間どおりに教えて上げたりした。	
3時間目（こくご）	漢字ドリルに出た生たち漢字を1人分ずつ黒板に先生が書き、それを見ながら漢字ドリルに書き込んだり、練習したりした。 ちゃんとはねるとこはねないとはらえないとかなど注意する子どもができるか見ておった。	算数の時間、なぜ算がわからないときに教えるために松村先生が教え方を教えてくれて考えて勉強になりました。 まんべんなく。 20－8＝○の場合、20を、20/10/10に分け、10－8をして、20/10/10－8＝○あまったものを足してみる。 たしてを、12と出すという方法で、子どもたちに教えるためかったみたいで、この方法はよく使えると思いました。
4時間目（たいいく）	担任などと話合いをして、今日はフラッシュ1つと跳び10の用意をして、ケガへの準備をした。	
12:30	活動終了	

担当者氏名

1先生と2先生では、授業中の態度や内容が全く違うというのがわかりました。
松村先生に毎日来てほしいなあと、今日はあっという間でとても楽しかったです。
どうしても緊張気味になりました。
次回はもっと自分なりに動いて、今後につながるような事を学んでいけたらと思いました。

いい勉強になっています　こんな方法を　このインターンシップで学んでおけばいいね。　先生として自然な形で身につけていくことも多いので　これからも頑張って下さい

図2　インターンシップ活動記録の例

等である。学生は活動記録(図2)をとり，その週の内に大学担当教員へ提出することになっている。各小学校では，活動に偏りの無いように配慮してもらっているが，主として特別支援児童の補助に限られていたりすることもある。本人との話し合いにより選択も可能になっているので学生も納得している。学生の春学期の授業評価アンケートの結果(図3)，参加意欲，満足度も高く，全ての項目で平均値を大きく上まっており，学生も成果が自分の身に付いてきていることを実感として捉えているのではないかと考えている。

学校訪問をして，学生の活動状況を担当の先生や校長，教頭先生に聞いてみると，回数を重ねるごとに動きもよくなっており，児童との交流や接し方もうまくできるようになってきている。特に休み時間に児童と遊んでいる姿を見ると，学生の成長を感じるということであった。

学生も，授業に参加して新しい発見をしたり指導法の一部を学ぶことができたり児童とのふれあいの中で楽しさを感じたりと多様な経験の中で実践的に学んでいる。

(4) インターンシップの成果と課題

教育保育インターンシップは，履修資格としてGPA 2．0以上なければならない[4)]。教育現場に出て

実践的に学ぶためには大学の授業の中で知識を得ておくことは必要なことである。ましてや，単位が得られるのでGPA 2．0以上の条件は当然であると考える。しかし，小学校教育現場に出て経験を積みたいという強い意欲を持っている学生や編入生，玉川通信教育履修生にも教育ボランティアとしての門戸は開いておきたい。

受け入れ校は，教育保育インターンシップ履修生も教育ボランティア生も同じ学生として受け入れているので問題はないが，大学側としては，条件面で教育保育インターンシップ履修生が不利にならないようにしたり，教育ボランティア生の事前指導を怠ったりしないよう注意する必要がある。また，4年生には，教育保育インターンシップがないが，就職が目の前にあり，経験をさらに積んでいく必要もあるので，できるだけ教育ボランティアとして継続した活動をさせていきたい。そのための受け入れ校を探したり，事前指導をしたりする大学側の支援体制も確立させたい。

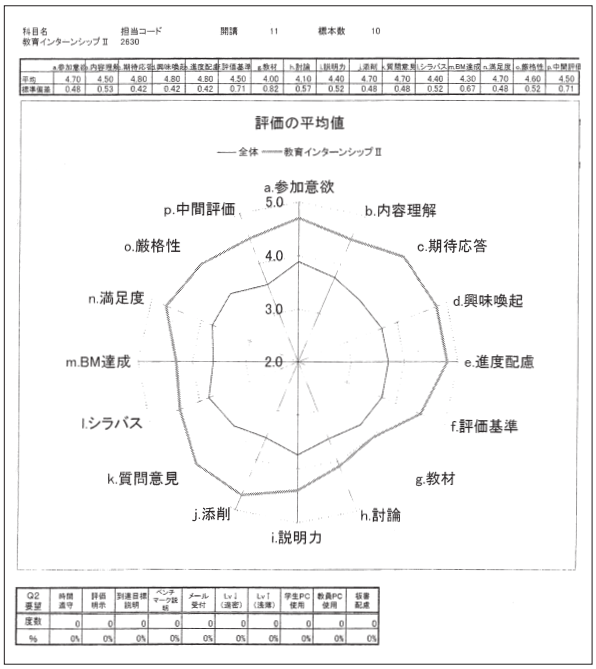


図3　教育保育インターンシップ評価の平均値

アンケート調査結果では，約9割の学生がこのインターンシップⅡの履修に満足している状況である。その理由は，現場での実体験ができること，子どもとの関わりが持てること，現場教員との話ができること等である。三木市に較べて神戸市の学生に満足度が高いのは，神戸市の場合にはスクールサポーター制度ができあがっており，受け入れ側の小学校及び教員にその体制ができていることが大きな要因であろうと推察される。今回実施した教育保育インターンシップⅡのマイナス面としては，半日しかできないこと，特に午後となると子どもとの関わりが少なくなってしまうこと，固定した曜日であることによる活動の制限等が挙げられている。

3．おわりに

本学教育福祉学科こども学専攻では，実践的指導力を大学在学中に身に付けるとともに，学習意欲を高めて，自らのキャリアプランを明確に持てるようにする目的から，教育保育インターンシップⅠ，Ⅱ，Ⅲという新設科目を立ち上げ，2008年度から実施することになった。教育保育インターンシップⅡは，2年生対象の選択科目であるが，教員からの薦めもあり，小学校教員免許取得をめざす学生45人中の39人が履修するという高い履修率となった。

この新設科目は，専攻では初めてのインターンシップということもあり，事前から大学所在の三木市および神戸市を中心に協力依頼し，実施に踏み切った。神戸市においては，既存のスクールサポーター

制度を本学のインターンシップに適応させる形で実施し，三木市では個々の小学校長の裁量で無理なく新設科目がスタートできるようにした。その結果，多くの学生がこのインターンシップⅡを履修することができたが，学生からは様々な異なる反応が生じることともなった。

来年の 2009 年度は，本学教育学部が尼崎キャンパスに移転することにともない，インターンシップの受け入れ先も尼崎周辺の地域を開拓することとなる。今年の三木キャンパスでの実施結果から可能な部分の改善を図り，この教育保育インターンシップⅡがより実りのある内容で実施して行けるように，学科専攻の教員が取り組んで行きたいと考えている。科目の体系化と実質化を目指して，遣りっ放しにならないようにすることが重要である。

注および参考引用文献

1）『教員養成学の誕生―弘前大学教育学部の挑戦―』東信堂，2007

2）「信州大学における教員養成 GP の取り組みと教員養成政策の動向」武者一弘，第 26 回全国私立大学教職課程研究協議会資料，2006.5.22-23

3）「学校インターンシップの成果と課題―2005 年度立命館大学の実践を中心に―」森田真樹，第 26 回全国私立大学教職課程研究協議会資料，2006.5.22-23

4） GPA（Grade Point Average）とは，90 点以上が 4，80 点以上 90 点未満が 3，70 点以上 80 点未満が 2，60 点以上 70 点未満が 1，60 点未満は 0 という成績評価の点数 (GP) の平均